



五卷之內

酒井松書



箕虫説

素堂

柴賣説

凡兆

閉關説

芭蕉

師説

許六

名阿段説

許六

出女説

木導

雜説

不知作者

愛釋説

万子

卅字藤説

朱廸

草薺説

露川

山芋説

吾仲

嘲霄惑説

毛純

風俗文選卷之四

○説類

箕虫説



素堂

五老井 許六選

○みぢぢしし。夢のおほいなりき。あつたね。ちんちんと
 なく。なまけり。これにけく。鬼の子なり。ん。
 清女が。みぢぢし。や。鬼なり。と。替。受。を。受。て。
 て。衆。あつ。みぢぢし。の。衆。なり。ん。
 この。ま。みぢぢし。なり。て。か。い。を。能。あ。を。あ。つ。ね。
 ぬ。松。ま。を。みぢぢし。なり。ぬ。よ。な。な。は。花。野。を。な。ふ。素。
 子。を。縁。を。吐。よ。い。わ。か。ら。う。て。縣。の。子。は。死。す。
 兄。の。む。し。み。ぢぢし。て。解。な。を。あ。つ。ね。ひ。胡。蝶。を。

飄然乘風

栖鴉莫啄

家童禁叢

天許作隱

我憐稱翁

脫簑衣去

誰識其終

柴賣説

凡兆

○柴賣の来りけり。小野。細河。くま。さ。雄。も。あ。れ。夫。其。
小原。と。花。を。梅。と。細。と。わ。い。え。わ。い。深。山。柴。を。た。が。庵。と。
折。之。く。と。い。つ。る。と。め。る。あ。く。も。お。ま。を。な。し。ん。か。の。秦。
乃。毛。女。が。買。し。も。似。も。河。陽。の。焦。子。が。仁。も。あ。い。も。唯。世。路。
里。乃。う。け。め。し。て。女。を。た。が。わ。く。く。神。を。賣。更。々。山。と。入。
く。神。を。焦。子。既。々。小。野。せ。も。思。く。是。を。泥。と。深。

ま。と。も。い。さ。び。く。ま。建。れ。門。院。乃。女。屠。阿。波。乃。曲。傳。の。局。
た。じ。い。人。乃。名。お。あ。る。し。や。あ。け。さ。ひ。と。へ。ら。に。香。お。あ。い。
衿。と。は。く。い。結。し。て。二。布。を。あ。り。い。い。く。も。お。ほ。い。
志。海。さ。は。い。き。い。ま。あ。ら。う。ひ。き。き。い。ひ。く。う。い。い。
む。ず。び。さ。も。幾。男。乃。ん。ひ。か。い。も。ま。と。躑。躑。と。な。と。載。
え。草。も。虎。ね。を。も。づ。ひ。り。さ。ん。の。い。は。い。た。い。ぬ。
乃。乃。ほ。い。一。里。二。里。と。ひ。く。ま。さ。ま。あ。り。て。腐。や。ら。
業。も。た。く。も。の。陰。も。と。睡。を。も。か。ま。ひ。漸。京。の。所。と。
ち。い。づ。と。と。と。ゆ。乃。乃。り。り。と。も。ち。ぎ。り。て。大。路。小。路。と。い。ふ。
或。ら。お。話。し。て。門。を。と。り。あ。る。い。ら。は。乃。市。と。名。を。
志。海。づ。く。小。野。の。首。を。と。り。月。乃。々。と。つ。ま。い。お。く。ま。

てお茶を淹れながら、いふ家へいふと矢
と。ぐるをうにあうき。東^{アサヒ}の笑ひく口男
や。さかえん。官女もかまういご。にね地を
つむ。傾城もあけよう。うさ。あな妹^{モシ}省をなさむ。
けをう。となびと。うさ。あな^{サレコト}れえ。うさ。
あはる。

閑閑說

色々君子乃ふらびふとして。佛も氣戒乃そと然り
 とくといふもさけふ控ぐし身懷乃あやしく小あつね
 かねるづゝもおほるべし。人志新ぬくぬの山の陣

ト仰一。おれいのり乃自いもして悲ぶ此身の人め
閑も、と心なくいつかあやう地を、はてしむあまの
子供波の神も神志ほましく家をつくる方とて、
——おはれと老の男乃約束といさふ事跡の中
に魂をとる——たて、おの時をもさようさうに還ハルカまり
て罪ゆる——ぬき。人生七十を稀なりとして、外番
なるもの、まげふ二十余也。ぞめの老死事終る。
一夜の暮おどく。夢中六十一年おとすといふなく
し。あたま——うらばともて、有縁がちよ記忘る。
孫えんが別るなりとむさする。おれなる者へふ
ずなかり。怒悩増え——て一歳すぐらゝは、是暇

の擧るる也。是を以て世に示さるるふあへ。貪欲
の魔界の心を怒り。溝洫はあはましく。生ずるやある
道と。南華老仙の唯利害を彼知し。老若を以て
きて閑よりむ。老の樂といふべし。人事はた
り。亦あり。他のかの業をさす。いづれも
さるる。貪を用て。たむ。門を。さし。いふ。なる。ま
なり。貪を富とて。み。中。能。自。其。の
の。禁。戒。と。なり。

新うはや直を。後。わ。門。の。恒

師説

許六

い。一。は。ま。は。必。師。あり。師。の。道。と。は。ま。は。業。を。受
惑を解る。わ。と。は。神。と。い。う。一。は。ま。は。い。う。一。
そ。い。う。一。は。ま。は。一。は。ま。は。一。は。ま。は。一。は。ま。は。一。
と。ま。は。一。は。ま。は。一。は。ま。は。一。は。ま。は。一。は。ま。は。一。
ありて。道。を。な。る。一。退。き。い。ふ。か。う。い。ふ。は。ま。は。一。
の。以。て。わ。あ。は。ま。は。一。は。ま。は。一。は。ま。は。一。は。ま。は。一。
う。一。は。ま。は。一。は。ま。は。一。は。ま。は。一。は。ま。は。一。は。ま。は。一。
果。然。と。い。ふ。一。は。ま。は。一。は。ま。は。一。は。ま。は。一。は。ま。は。一。
る。一。は。ま。は。一。は。ま。は。一。は。ま。は。一。は。ま。は。一。は。ま。は。一。

道の師といふは、一なる先。世佛なる師なる人を
とらふ。其師より一教を。諸教をきて貴賤をあらわし。利
益を説て富を有する。とて世に名をたてし。
此はたゞて世に名をたてし。とて世に名をたてし。乃
則ちよひりて。世を愛する。果ては。世をなす
人。又とある。一の子は。輪者なり。其父母をたてし。
その世に名をたてし。とて世に名をたてし。乃
つづいて。世をたてし。とて世に名をたてし。乃
あらう。一なる。世に名をたてし。何れも。世に名をたてし。とて世に名をたてし。
たてし。とて世に名をたてし。とて世に名をたてし。乃
只す。世に名をたてし。とて世に名をたてし。乃

又とら。馬牛の。乃。信。讀。其。乃。師。なる人
お。申。せ。ぬ。教。つ。き。と。と。い。ふ。は。た。乃。師。を。た。て。し。と。い。ふ。
その世に名をたてし。とて世に名をたてし。乃
つづいて。世をたてし。とて世に名をたてし。乃
人。を。た。て。し。と。い。ふ。は。た。乃。師。を。た。て。し。と。い。ふ。
教。と。い。ふ。は。た。乃。師。を。た。て。し。と。い。ふ。
て。と。二。世。を。た。て。し。と。い。ふ。は。た。乃。師。を。た。て。し。と。い。ふ。
もう。一。世。を。た。て。し。と。い。ふ。は。た。乃。師。を。た。て。し。と。い。ふ。
茶。を。た。て。し。と。い。ふ。は。た。乃。師。を。た。て。し。と。い。ふ。
一。一。と。い。ふ。は。た。乃。師。を。た。て。し。と。い。ふ。
の。自。然。人。と。い。ふ。は。た。乃。師。を。た。て。し。と。い。ふ。

かゝりいふのいふべし。

名阿段説

許六

ひたのふあをつきて。又字の指と指しつゝを社
を新づる極といふは神也。通字ありて己乃己
ともいふべし。き神なりて事も事ハ名まじくや。
名固のあはせなり。一也もあるや。さ神ハ味も極
とも見るもせむ。承補ハ飯をもぬきなり。一々
ありては名固のあはせなり。さるを今乃人名と
天現ハかゝりつゝをさるとおもつ。つゝとて承
きふ名をあらとて。名固と名固をさける。果

乃くつゝも呼い人といふも。教識とハ顯密の名。
鉄巖とはめくもぬき。神師乃号大い。一流一流の
名固あるが極なり。乃人の名はく。中。深ふ心なり。
歌を教して家子乃名と。白歯を以てくも名を
定む。つゝ一あ字のつゝ。ぬき心をもく。又可本
端乃類も。神。さあは。一。笑。志。計。もあは。わ。は。海。
か。小。坊。主。阿。段。よく。系。を。く。む。平。が。渴。も。む。む。
む。が。極。ぬ。き。等。一。を。神。ハ。名。固。ハ。説。け。り。い。
い。ま。じ。つ。つ。する。ま。か。く。け。り。

木道

1840
 1841
 1842
 1843
 1844
 1845
 1846
 1847
 1848
 1849
 1850
 1851
 1852
 1853
 1854
 1855
 1856
 1857
 1858
 1859
 1860
 1861
 1862
 1863
 1864
 1865
 1866
 1867
 1868
 1869
 1870
 1871
 1872
 1873
 1874
 1875
 1876
 1877
 1878
 1879
 1880
 1881
 1882
 1883
 1884
 1885
 1886
 1887
 1888
 1889
 1890
 1891
 1892
 1893
 1894
 1895
 1896
 1897
 1898
 1899
 1900
 1901
 1902
 1903
 1904
 1905
 1906
 1907
 1908
 1909
 1910
 1911
 1912
 1913
 1914
 1915
 1916
 1917
 1918
 1919
 1920
 1921
 1922
 1923
 1924
 1925
 1926
 1927
 1928
 1929
 1930
 1931
 1932
 1933
 1934
 1935
 1936
 1937
 1938
 1939
 1940
 1941
 1942
 1943
 1944
 1945
 1946
 1947
 1948
 1949
 1950
 1951
 1952
 1953
 1954
 1955
 1956
 1957
 1958
 1959
 1960
 1961
 1962
 1963
 1964
 1965
 1966
 1967
 1968
 1969
 1970
 1971
 1972
 1973
 1974
 1975
 1976
 1977
 1978
 1979
 1980
 1981
 1982
 1983
 1984
 1985
 1986
 1987
 1988
 1989
 1990
 1991
 1992
 1993
 1994
 1995
 1996
 1997
 1998
 1999
 2000
 2001
 2002
 2003
 2004
 2005
 2006
 2007
 2008
 2009
 2010
 2011
 2012
 2013
 2014
 2015
 2016
 2017
 2018
 2019
 2020
 2021
 2022
 2023
 2024
 2025
 2026
 2027
 2028
 2029
 2030
 2031
 2032
 2033
 2034
 2035
 2036
 2037
 2038
 2039
 2040
 2041
 2042
 2043
 2044
 2045
 2046
 2047
 2048
 2049
 2050
 2051
 2052
 2053
 2054
 2055
 2056
 2057
 2058
 2059
 2060
 2061
 2062
 2063
 2064
 2065
 2066
 2067
 2068
 2069
 2070
 2071
 2072
 2073
 2074
 2075
 2076
 2077
 2078
 2079
 2080
 2081
 2082
 2083
 2084
 2085
 2086
 2087
 2088
 2089
 2090
 2091
 2092
 2093
 2094
 2095
 2096
 2097
 2098
 2099
 2100
 2101
 2102
 2103
 2104
 2105
 2106
 2107
 2108
 2109
 2110
 2111
 2112
 2113
 2114
 2115
 2116
 2117
 2118
 2119
 2120
 2121
 2122
 2123
 2124
 2125
 2126
 2127
 2128
 2129
 2130
 2131
 2132
 2133
 2134
 2135
 2136
 2137
 2138
 2139
 2140
 2141
 2142
 2143
 2144
 2145
 2146
 2147
 2148
 2149
 2150
 2151
 2152
 2153
 2154
 2155
 2156
 2157
 2158
 2159
 2160
 2161
 2162
 2163
 2164
 2165
 2166
 2167
 2168
 2169
 2170
 2171
 2172
 2173
 2174
 2175
 2176
 2177
 2178
 2179
 2180
 2181
 2182
 2183
 2184
 2185
 2186
 2187
 2188
 2189
 2190
 2191
 2192
 2193
 2194
 2195
 2196
 2197
 2198
 2199
 2200
 2201
 2202
 2203
 2204
 2205
 2206
 2207
 2208
 2209
 2210
 2211
 2212
 2213
 2214
 2215
 2216
 2217
 2218
 2219
 2220
 2221
 2222
 2223
 2224
 2225
 2226
 2227
 2228
 2229
 2230
 2231
 2232
 2233
 2234
 2235
 2236
 2237
 2238
 2239
 2240
 2241
 2242
 2243
 2244
 2245
 2246
 2247
 2248
 2249
 2250
 2251
 2252
 2253
 2254
 2255
 2256
 2257
 2258
 2259
 2260
 2261
 2262
 2263
 2264
 2265
 2266
 2267
 2268
 2269
 2270
 2271
 2272
 2273
 2274
 2275
 2276
 2277
 2278
 2279
 2280
 2281
 2282
 2283
 2284
 2285
 2286
 2287
 2288
 2289
 2290
 2291
 2292
 2293
 2294

酒乃こ。之は進退のやもたずへづこは松光同塵乃
 染をあうり。慈悲中一乃お女とくつかなわわ。信生
 源のあわさまをさるふ。地をうへは旅お乃骨とく
 さた。甘う花のそくいもあて。江湖の脚乃独
 信とあさむいし。あるハ船立乃旅人と送つ。打
 姿とぬぎ捨く。第と飛。都やうが。おひ
 きて。やぐ衣。再寐の着れさめ時を。膝の
 疾を相満とわい。まは舟の漢。膝すすわ。あ
 通乃。土よ。まなを。やう。ま乃。日。と。被
 や。や。やく。え。せ。乃。面。は。座。と。志。め。泊。り。他。り。今。え
 お肌ぬ。乃。大。を。い。し。首。飾。の。あ。う。り。わ。燕。々。并。あ。わ

も来氣しう。目さし心枕はせし海も。園れの池より代
うきて。おこしき^{タテ}監^{タテ}海^{タテ}よ。東條の寄むてびさげて^ヒ繁^ヒ
乃ち下れまじ。あまう。門の柱よりち海をうかき^カま^カ一
世の勢ひなるべし。いなる人やうして。いなるれは各
まふもあつべし。お母もえやう。れはう。あふはま
よ。とき^タ繁^タや。こよな^タが^タま^タら^タ同^タ心^タ乃^タ美^タの^タね^タいつけ
わい。度^タあ^タ乃^タ手^タ指^タよ。輕^タ忽^タの^タあ^タを^タ上^タく。あ^タま^タ
ま^タこ^タこ^タ入^タ。油^タ火^タか^タよ^タま^タこ^タ。指^タを^タの^タは^タづ^タわ^タる^タ。あ^タま^タ
な^タふ^タべ^タ。青^タ夫^タ。漢^タは^タも^タ腰^タを^タり^タづ^タる^タ。急^タ用^タよ。ハ^タ赤^タ脚^タ
て^タ飛^タ脚^タ。是^タ諸^タ乃^タ金^タ盛^タも^タじ^タ。よ^タな^タも^タ果^タ。姫^タ女^タ照^タも^タ
う^タま^タは^タれ^タま^タ。い^タ沙^タに^タも^タなり^タ。と^タあ^タこ^タの^タ楓^タ樹^タん

月^タ海^タを^タ乃^タ吟^タも^タ。い^タ君^タよ^タあ^タい^タぬ^タう^タみ^タを^タれ^タべ^タ。い^タ
お^タ泊^タも^タ。あ^タか^タこ^タぬ^タ君^タも^タなり^タま^タこ^タて^タ。今^タい^タま^タこ^タう^タふ^タい^タ
な^タる^タぬ^タ。伊^タ勢^タ乃^タ彩^タ色^タハ^タあ^タら^タめ^タら^タう^タた^タ津^タ草^タは^タ
ま^タが^タう^タい^タ海^タべ^タ。そ^タ指^タ乃^タま^タづ^タなる^タい^タづ^タい^タと^タ
な^タく^タよ^タう^タ果^タく^タ。鼻^タ乃^タ下^タの^タ燦^タ々^タも^タま^タこ^タく^タ。中^タ綿^タふ^タ
乃^タ小^タ車^タれ^タも^タも^タ。さ^タび^タく^タま^タこ^タて^タ。お^タ内^タ呂^タの^タ火^タ氣^タも^タま^タ
袋^タこ^タも^タも^タ。い^タ。り^タ田^タ今^タハ^タは^タな^タさ^タび^タく^タ。長^タ四^タハ^タ
勤^タも^タせ^タび^タ。さ^タ神^タと^タあ^タら^タね^タなる^タこ^タよ^タ。い^タなる^タなる^タい^タ
夜^タ更^タなる^タま^タづ^タ。わ^タら^タお^タま^タ道^タより^タ志^タの^タい^タや^タ。お^タ書^タ現^タ
床^タ乃^タ小^タ陵^タよ^タあ^タま^タて^タ。神^タ乃^タ陽^タ離^タも^タも^タう^タなる^タい^タ
大^タ股^タよ^タお^タこ^タい^タ。幾^タよ^タ一^タ夜^タ入^タ枕^タと^タあ^タふ^タ。い^タ知^タる^タい^タま^タれ^タ言^タ

草子なるものの中はト云ふべし。情中^{ワキ}はあはれ
色^{イロ}もどろけを解^{トキ}のうちをあはれ。ふたふたを
唱^{ナゲ}るふし。寛^{カン}と云ふは。てぞうやまれなほ。

折^{カサ}溢^ト。一情乃かづやあ乃む

草子説

露川

○松の葉うまいを思ふは。まあわびく。そは親のま
しき。わをまひつゝもあてお。かうも。ふるき
みひく。親もた。兄中も。いづこも。わびく。
いつて。いづこも。わびく。あはれ。乃松のあはれ
て。乃松のあはれ。乃松のあはれ。乃松のあはれ。

なる。一は草子なる。乃松の名人。さて。乃松の
お。乃松のあはれ。乃松のあはれ。乃松のあはれ。
乃松のあはれ。乃松のあはれ。乃松のあはれ。
乃松のあはれ。乃松のあはれ。乃松のあはれ。
乃松のあはれ。乃松のあはれ。乃松のあはれ。
乃松のあはれ。乃松のあはれ。乃松のあはれ。

草子乃松。一は乃松のあはれ。

山芋説

吾仲

草子。乃松のあはれ。乃松のあはれ。乃松のあはれ。
乃松のあはれ。乃松のあはれ。乃松のあはれ。
乃松のあはれ。乃松のあはれ。乃松のあはれ。
乃松のあはれ。乃松のあはれ。乃松のあはれ。
乃松のあはれ。乃松のあはれ。乃松のあはれ。

新記

新記

新記

落柿舎記

去來

幻ゲン住チウ菴ア記

芭蕉集

十八樓記

芭蕉

五老井記

許六

九キウ華カ亭テイ記

汶村

琵琶亭記

許六

風臺水臺記

許六

附紀行

鹿嶋紀行

芭蕉

南行紀

李許

同俗文選卷之五

五老井許六選

記類

洛柿舎記

去來

○縁よひ川の端の家なるそのほとりふ柿の小窓に
あるもみとせとせぬれと。このも持来しむ付^{ツケ}あ
るさもさうひびり。面風は病ささあ。主祥^{ミチサキ}づ忘るも
とちよ。着^{モシ}やもは鳥よと。秋ま^{アキ}天乃帝のめづるも
り秋まじし。所^{トコロ}あも人^{ヒト}と。ま^マい^イい^イこのありきわ。
て。八月乃末。や。こよもぬおや。こやこ。わ
高^{タカ}人のまあり。ま^マあ^アかい^{カイ}わ^ワむと。一^{ヒト}要^{ヨウ}又^{マタ}こ。か。

後びかつりぬ。予ハ程そふとて申せしるふ。くんと
河松一海老。いしくとをよつとて。老。た。く。あ
もや。た。は。ま。い。高。人。の。足。算。ま。く。わ。指。は。い。く。と。お。孫
わ。あ。む。ふ。お。な。り。は。い。わ。白。髪。する。よ。て。げ。り。と。業。く
ゆ。も。と。か。く。と。わ。あ。わ。る。様。と。い。ひ。さ。の。ふ。れ。價。が。い
ふ。れ。ま。い。と。も。や。信。じ。と。使。ま。き。被。ひ。ゆ。く。ー。や。り。ぬ。し。者
乃。か。い。ま。い。な。さ。ち。乃。洋。へ。消。息。送。る。と。て。い。け。く。あ。様
今。の。ま。ま。と。書。ん。で。失。う。わ。

柿。ね。や。ま。い。果。々。ら。う。に。あ。く。い。

幻住菴記

芭蕉翁

石山乃奥。岩間のうーろふ山あり。國分山と云ふ
く。國分。ち。乃。名。を。傳。ふ。な。る。べ。い。林。深。く。細。く。流。を
流。して。翠。嶺。と。登。る。事。二。曲。二。百。歩。に。く。幅
寛。く。せ。す。神。佛。ハ。鉢。陀。乃。る。像。と。や。唯。一。の。お
ま。甚。多。なる。事。を。兩。部。光。林。や。い。を。利。益。の。廣
を。目。し。く。志。す。も。又。ま。ふ。く。目。以。て。人。乃。指
さ。り。され。ば。い。く。神。さ。び。物。を。け。り。な。る。傍。に。住。持
一。ま。の。い。あ。る。い。よ。り。根。邊。新。と。こ。み。を。こ。り。わ
な。り。て。杭。柱。ゆ。く。と。結。成。り。わ。幻。住。菴。と。云。あ。く。

人といふ。さうか。嶽。千よ。子。袴。腰。といふ。山。ある。
黒。ば。の。里。い。い。と。う。様。う。席。り。て。細。代。ち。よ。ど。い。よ。み。
々。む。美。さ。か。は。来。乃。染。さ。り。く。り。杉。眺。る。く。ま。さ。う。
ひ。と。信。の。ま。よ。遠。の。ぼ。る。松。乃。棚。は。く。り。茶。乃。目。在。
を。さ。く。様。の。腰。掛。と。名。づ。き。彼。海。棠。よ。草。を。い。し。る。
ひ。主。房。ま。よ。茶。を。弦。づ。る。王。翁。除。佞。が。後。い。い。あ。ど。
唯。腰。辟。山。氏。と。な。り。て。藤。都。よ。足。を。さ。げ。ぜ。一。亭。
山。よ。風。を。和。て。座。を。さ。め。く。ん。中。央。あ。る。何。の。谷。か。ん。
清。水。を。汲。く。自。炊。く。と。く。乃。常。を。信。て。一。軒。乃。
備。い。と。う。一。と。い。む。う。何。く。む。人。の。解。よ。ん。さ。く。何。
か。一。は。と。い。さ。く。と。お。も。う。お。す。れ。も。な。い。お。佛。一。個。

と。偏。て。夜。の。お。ち。さ。む。さ。ま。な。い。と。い。う。と。う。へ。と。
さ。向。を。眺。み。さ。う。う。山。の。信。正。々。加。茶。の。甲。斐。何。う。
う。殿。ま。う。と。い。う。は。流。の。目。り。い。す。ぞ。わ。さ。る。と。あ。る。人。
さ。う。額。を。い。い。と。や。も。く。と。筆。を。添。て。印。住。茶。乃。二。
字。を。送。く。信。故。て。ち。茶。の。記念。と。な。い。ぬ。さ。う。く。山。
后。と。い。い。様。様。と。い。い。さ。る。器。さ。く。い。ふ。層。く。も。な。い。ま。
さ。う。何。さ。越。の。友。義。と。い。い。松。の。上。に。石。よ。あ。る。と。い。い。
ま。い。と。い。い。と。い。い。と。い。い。と。い。い。と。い。い。と。い。い。と。い。い。
里。の。お。の。こ。を。入。ま。さ。て。お。の。ま。の。福。く。い。あ。り。し。尤。
乃。豆。細。よ。か。う。ふ。な。い。と。い。い。と。い。い。と。い。い。と。い。い。と。い。い。
何。の。い。ま。ば。夜。座。静。よ。月。を。結。て。と。新。を。信。い。松。を。

木

同乃中標のそ。安へま天に臘鼓を鼓し。ふたの流
 も。洗て。ゆる。平。元。禄。を。平。に。申。な。二。月。に。結。

五老井 許六撰

芭蕉

〇清乃貞室。次乃新浦の月見よりく。松ヶげや。月々
 之み松中細えといひをじ。相更のむしもなり
 けしよきふ。けし秋麻^カ鳴^{ミナ}心乃月見むと。おのい立ち
 あり。ばいふ人ふきり。いとわは浪客乃^シと。むらと。いふ
 お傳。傳ら^カかしものてくなら。きよの衣よ。衣新感^カを
 えらと。おき。お心新き像^ツを。厨子^シはおく火入く。宵中
 せをふ。相^{ヒキ}成^{ナリ}なり。く。無^カ乃^ナ開^キもさ^カ心^シを
 おめつら。は独^ヒあ。して出^デぬ。今^{イマ}い^ハわ^ハ。傳^ツもあ^ハら^ハど。

連舟もさへ入る。そと米も名づけさむ。和あなうら
あふくも。白くく色べくも。様よおしすいふひ安
なりきり。新々綿を枕よききしんやうえ。為伸
ぶち提も折入く。那のぢきんはおそきるも。風流ゆ
かど。きちが。をこけー。かきや。尾むこ。神合て
小男康乃つまふ考。いとあつ神なり。聖の物。雨地
かきむ神あり。又あつ神也。目すんよ。きき。後よ。
利根川乃とも。痛きといふ。水よ。はく。げ川より。新サケの
細代アズロといふ。おれをそくえん。武江の市はいく。共あわ
育乃ほじ。その漁家よ入く。やまら。おれ宿ヤト宿ネニグサ
月々両りく。睡き。きり。お船きり。て。康乃。

諸君——と校の紙をかくし——。首よりけしる取陀城。
 月をすれお果し——。布川山乃山中。道づきせとやと
 見まがふ。念神なる。解ニリなわらわ。男はより。南又やいせ
 う中何の。法や先やとすつ神。やぐむ山の。派はく。
 ふうま。小風呂。お時宜。何をうけ——。聖ミコ名神の役。
 なる。夜ある。湯と。諸君。おれより。湯中。のおぼろを定ぬ。
 目く。の。やと。ま。記さじ。う。神も。湯中。あつ。き。て。思を
 べ——と。書記も。湯中。あ。と。男。ま。は。一。ぬ。
 ぬ。ま。ば。お。生。れ。日。湯中。お。男。ぬ。——と。起て。お。へ。き。入
 う——。例の。一。獲。お。と。と。勢。を。神。が。解。も。う。流。と。く。お。無
 事。わ。天。氣。よ。く。お。お。入。お。あ。い。と。う。と。の。う。と。並。お。お。お

法。す。い。お。う。う。う。を。近。く。の。き。う。内。を。あ。く。と。く。く。わ
 法。麻。山。お。じ。と。く。解。を。か。る。お。無。男。も。

天井テニジヤウも。首ツビは。く。く。く。ひ。さ。く。く。聖

伊。勢。は。馬。士ウマシの。法。麻。や。花。男。男

ト。お。坂。お。あ。い。う。う。う。お。お。お。の中。お。坂。お。乃。お。も。解。が。く
 ち。う。う。と。お。わ。

お。も。竹。お。ど。り。や。お。あ。——。聖

お。お。お。う。う。う。の。地。お。う。う。う。う。う。う。う。茶。店。を。と。う。う。
 お。お。う。う。う。う。う。う。う。勝。を。う。け。お。わ。

田。お。あ。や。あ。よ。の。く。は。よ。う。く。お。う。産。男

た。お。お。お。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。お。は。い。う。う。

四

阿ラノシラジ
曠野集序

芭蕉
猿蓑序

其角

エスルリゴ
宴拊後園序

支考
近江八景序

千那

セウ
四絶文章序

李由
要文集序

許六

ガハロ
画樓繪合序

許六
麻生後序

許六

キンガ
銀河序

芭蕉
番椒序

野坡

○序類

曠野集序

五老井 許六選

芭蕉

一 尾陽をまた。僵木堂主人荷がま。集を編てるをあらわ
し。何ゆへい名あるうとまをむ。ううふふりひき
ふいせ此端と拊蓑とむく。乃忠於とあけりて
や乃目いふ。そ目げおほふて。乃の目とせよわ
やうとむわや衣更思ふし。乃そあを。き柳極の涕を
あう。い。襟をひ。おのがさま。なる風。うう。て。柳。
實とことかふ。もの。い。ふ。や。新。乃。い。ん。さ。る。ん
う。う。あ。う。か。ひ。ふ。ふ。り。て。拊。ゆ。り。乃。か。め。も。つ。ん。

そらへい。海もくおもつ。海だうくがづ。幾つを路乃益
路乃益。かづもて。貧乏橋の口。路乃益。みさ。れとな。も。
不食甘。家お付。ふ。品。れ。も。これ。お。は。い。ハ。奴。僕。豆腐の
は。お。な。の。と。を。え。ひ。も。を。家。も。乃。最。と。と。さ。も。か。く。い。く
ど。ある。く。小。中。の。ゆ。は。の。も。お。小。事。よ。こ。い。の。一
あ。な。の。海。も。と。い。ひ。み。の。り。一。路。下。を。さ。く。の
あ。つ。こ。い。も。は。や。た。ら。く。ぶ。よ。も。あ。う。な。志。し。今。ハ
そ。う。く。の。世。と。さ。ら。く。い。は。い。お。い。と。も。れ。じ。く。
と。か。く。も。目。を。さ。ら。く。く。も。と。さ。ら。く。序。を。と。さ。く。い。よ。
石。基。を。焼。く。一。根。を。さ。ら。く。も。板。

